

会 議 録

会議の名称	豊中市総合計画審議会 第1回 第2専門部会		
開催日時	平成29年（2017年）2月9日（木） 18時00分～20時00分		
開催場所	第二庁舎3階 大会議室	公開の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可・不可・一部不可
事務局	政策企画部 企画調整課	傍聴者数	0人
公開しなかった理由			
出席者	委員	赤井委員、加藤委員、國定委員、宗前委員、廣瀬（史）委員	
	事務局	足立部長、福山次長兼課長、糸井主幹、榎本主幹、佐野副主幹、上野	
	その他	特定非営利活動法人とよなか市民環境会議アジェンダ21 事務局長 廣田氏 新千里南町2丁目西自治会 森田氏 一般社団法人豊中青年会議所 理事長 寺川氏 とよなか市民公益活動協議体らっぷ 代表 芳村氏 新千里北町地域自治協議会 副会長 浅野氏 千里ニュータウンFM放送株式会社 取締役 放送局長 向井氏	
議題	1. 市民活動団体等との意見交換 2. その他		
審議等の概要 (主な発言要旨)	別紙のとおり		

平成 28 年度 豊中市総合計画審議会 第 1 回第 2 専門部会 議事要旨

日 時	平成 29 年 (2017 年) 2 月 9 日 (木) 18 時 00 分～20 時 00 分
場 所	豊中市役所第二庁舎 3 階大会議室
出席委員	赤井委員、加藤委員、國貞委員、宗前委員、廣瀬 (史) 委員 計 5 名
出席団体	特定非営利活動法人とよなか市民環境会議アジェンダ 21 (廣田氏) 新千里南町 2 丁目西自治会 (森田氏) 一般社団法人豊中青年会議所 (寺川氏) とよなか市民公益活動協議体らっぷ (芳村氏) 新千里北町地域自治協議会 (浅野氏) 千里ニュータウン FM 放送株式会社 (向井氏)
事務局 傍聴者 案 件	政策企画部企画調整課：足立、福山、糸井、榎本、佐野、上野 0 名 1. 市民活動団体等との意見交換 2. その他
資 料	○ 次第 ○ 【資料 1】 市民活動団体調査結果一覧表 ○ 【資料 2】 第 4 次豊中市総合計画前期基本計画 (素案) ○ 【参考 1】 第 1 専門部会座席表 ○ 傍聴者アンケート
会 議 録	下記のとおり

●開会

●資料・趣旨・団体紹介について

事務局

(資料・趣旨の説明と団体紹介)

●「1. 市民活動団体等との意見交換」

部会長

本日、市民活動団体等の皆さんと「第 4 次豊中市総合計画前期基本計画 (素案)」について、意見交換をさせていただきます。

市民活動団体等の皆さんには、15 分程度のお時間の中で、審議会委員から質問をし、意見交換をさせていただきますたく思います。

それでは、専門部会の進め方について事務局より説明をお願いします。

事務局

(専門部会の進め方の説明)

部会長

それでは、とよなか市民環境会議アジェンダ 21 へのご質問をお願いします。

委員

貴団体は、20 年前に立ち上げられたと記憶しています。会議や勉強会を欠かさず実施しており、熱心にご活動されておられます。

豊中市は緑が豊かで、立派な公園もあり、高く評価されていると認識していますが、資料 1 の「まちの課題」では、緑の質を課題としてあげておられます。この緑の質とは、具体的には何をさしていますか。

特定非営利活動法人とよなか市民環境会議アジェンダ 21（以下「市民環境会議アジェンダ 21」とする）

豊中市が公表された直近の緑被率、市域面積に対する樹木等の割合ですが、13.1%から14.4%に増加しており、緑の量としては増えています。一方で、市民にとって望ましい風景や景色、環境などを選んで「とよなか百景」には、開発等で失われているものもあります。例えば、上新田では住宅開発に伴い、豊かな緑地や竹林がなくなったり、別の場所では特殊な地層が見られなくなったりしており、量では測れない魅力的な緑が失われています。

「豊中市史 自然編」では、豊中市内には1,000種類以上の植物が存在していたという記録があります。しかし、当団体が行った植物調査では、1,000種類以上のうち、50以上の植物の種類がなくなっていることが分かりました。

緑の量だけで言えば、前回調査よりも1.3%増えているのかもしれませんが。しかし、木が増えたというわけではなく、街路樹等が成長し、枝が広がることによっても数値上、緑被率は高まることとなります。単純に緑の量が増えたら良いというのではなく、どういった緑が残っているか、あるいは増やしていけるか、その点にもう少し焦点を当てても良いように思います。しかし、豊中市では、その点についての調査は行っておりませんし、計画も持ち合わせていません。

他方、国は生物多様性基本法をつくり、努力義務ではありますが、地方自治体において、生物多様性の保全に関する戦略を策定するよう促しています。私たちとしては、そうした戦略を作り、量だけではなく、種についての調査等を行っていただきたいと考えています。官だけでできないところは民と協働するなどしながら、次期総合計画には、よりレベルの高い取組みを進めていただければと思います。

先日、民間のシンクタンクが全国の自治体を対象に生物多様性についての調査を行い、ランキングを公表しました。結果としては、豊中市は上位にかすりもしなかったのですが、隣の伊丹市は全国で上位に位置付けられていました。伊丹市は生物多様性に関する計画等を作って、それに基づいて行動されており、生物にとって魅力のある自治体であると評価されていました。次期総合計画には、緑の量だけではなく質に対して市がどう考えているか示してほしいと思います。

委員

「資料1」の「まちの課題」の2点目に「地球温暖化対策の具体的施策が弱い」とありますが、具体的にどう弱いと感じていますか。

市民環境会議アジェンダ 21

私は環境基本計画の委員として関わっており、そちらでも議論になっていますが、豊中市では環境基本計画とは別に、地球温暖化防止に重点を置いた計画も作られています。その計画が、始めに作られたのは2007年で、その中では、市民や事業者の省エネを進めるための戦略が4つほど掲げられていました。それには、当時、全国的に見ても先進的な取組みが含まれていました。2011年の東日本大震災以降、全国的に省エネや温暖化対策に統一性がなくなってきており、なにが先駆的な取り組みなのかということが全国的に分からなくなってきている側面もありますが、豊中市として今までしていることは引き続きするとしても、これまで以上の新たなアイデアが生まれていないように思います。逆に言えば、市民等に省エネの取組みが根付いているからという側面もあるのかもしれませんが、そう感じています。

部会長

「第4次豊中市総合計画前期基本計画（素案）」に、今のご意見の趣旨に合うものとしては、p. 28、29あたりに記述があります。書込みが足りないなど、文面についてご意見はありますか。

市民環境会議アジェンダ 21

書かれていないことはないですし、総合計画なので、全体を包括したような書き方になるのは分かりませんが、総合計画、また、分野別計画においても、記述に物足りなさを感じています。

部会長

そういう趣旨なら良いのですが、たまに記述内容が時代遅れという指摘があるので、確認させていただきました。総合計画は未来に向けた計画ですので、時代遅れの考え方は載せるべきではありません。もしそういった記述があればご指摘いただきたいと思います。

市民環境会議アジェンダ 21

時代遅れということではありませんが、p. 29の「自然環境や都市のみどりを身近に感じられる快適な環境づくりを進めます」の「主な取組み」として5つ挙げられていますが、この順序には少し違和感があります。豊中市が取組むべき優先順位はこの並びではないように感じています。

委員

先ほどご指摘いただいた p. 29の「主な取組み」の順序ですが、個人的な思いで結構ですので、例えばどういう順序が良いと思いますか。

市民環境会議アジェンダ 21

分野別計画の順序に揃えるというのが1つあるかと思います。現在、分野別計画では、「公園緑地の整備・充実」「多様な生物の生息空間の保全・創造」「農地の保全・活用」「都市緑化の推進」といった順番になっていますので、それと対応させても良いのではないかと思います。

もう1つの提案としては、実施主体ごとに順序を入れ替えるという方法も良いかと思います。例えば、「公園緑地の整備・充実」は公的な取組みの側面が強いかと思いますが、「都市緑化の推進」や「多様な生物の生息空間の保全・創造」は行政が市民団体と協働しながら取り組んでいます。市民団体等との協働があるものとないものの違いが分かるように並べ替えたり、整理するのも良いかと思います。

また「協働」という言葉の使い方も気になります。例えば p. 31の「廃棄物の減量と3Rの推進」ですが、分野別計画では確かに「市民・事業者・行政による協働の取組みを進めます」と書かれているのですが、廃棄物の減量については、事業所への対応等の必要があり、協働というよりも、行政の役割が大きい分野ですので、協働という言葉が大きく打ち出すべきなのか疑問に思います。協働という言葉の使い方については、全体を通して、少し気になりました。

委員

総合計画と分野別計画の方向性やポリシーが一致していることが重要だというご指摘だと理解してよろしいですか。

市民環境会議アジェンダ 21

始めの委員のご質問は、現行の分野別計画にも書かれていない部分ですので、豊中市として次期総合計画でどう考えているのかということを反映いただければと思います。後者につきましては、ご指摘のとおり、整合性をとってはどうかと思います。

部会長

全体に関わることですが、今、基本計画（素案）に掲げている「主な取組み」の順序ですが、上にある方が上位で下が下位ということではなく、並列で扱っているとはご理解いただければと思います。

続いて、新千里南町2丁目西自治会へのご質問をお願いします。

委員

まとめて2点お伺いしたいと思います。

まず、資料1の「活動概要」の内容として「景観形成推進地区の指定を受けた」と書かれていますが、特徴的なことやこれまでの経緯があれば、教えてください。

2点目ですが、「まちの課題」や「必要な取組み」にあげられていることと、「協働して担えること」が書かれてないので、それも含めてもう少し詳しく教えてください。

新千里南町2丁目西自治会

1点目の、景観形成推進地区の指定を受けた経過ですが、昭和38年頃に千里ニュータウンが開発されまして、北町、西町、南町とまちびらきされて、合計8つの自治会があります。最初、大阪府企業局が開発したときに、購入者に対して、10年間の建築条件をつけていました。建築条件が失効する10年後、8つの自治会が集まり、これに変わるものをつけなければいけないと話し合いました。当時、思いついた手法が建築協定だったのですが、建築協定は建築基準法で決められているように、100%の同意が必要です。しかし、3,000世帯をまとめるのはとても無理で、最終的にアンケートを取ったところ、80%の同意しか得られませんでした。そこで、今度は街区ごとで建築協定を結んではどうかと考えました。ですが、どこかで白抜きがでてきて、不公平感が生まれるということで、苦肉の策として、大阪府の当初の建築条件を各自治会で、申合せ事項ということで決議し、これを守ってきました。しかし、これはあくまで紳士協定ということでしたので、どうしても守られないところが出てきます。特に不動産屋が仲介した場合、その条件を知らせないまま、売却してしまうことが起こり、例えば、「宅地を2つに割ってはいけない」という条件を知らずに売買され、分割されるということが私の自治会内でも3件起こってしまいました。これ以上、分割した敷地を増やしたくないということで、各自治会で活動を行い、新千里南町2丁目西自治会では、行政と相談させていただき、市の景観協定という制度を利用させていただくことになりました。しかし、アンケートの結果、これも80%の合意が取れなかったので、協定の締結にはいたりませんでした。そこで、他の方法について、自治会でも検討をしまして、地区計画を定めようということになりました。市に相談したところ、市からコンサルタントの派遣などご協力いただき、やっと地区計画を定めることができました。この勉強会の中で出てきた意見が、色の問題でした。当時、東京で漫画家の家が話題になっていた頃でしたので、そのような奇抜な家が出来たら困るということで、色を定めようということになりました。塀を高くしないとか、生け垣を作ろうといったような要件も、景観形成推進地区の地区計画に盛り込めないかと勉強しまして、何とか盛り込むことができました。

「まちの課題」ですが、私どもの地区は新市街地なので、道路も敷地も広く、きれいに整備されています。しかし、豊中市全体で言いますと、狭小宅地と狭あい道路が課題となっているように思います。また、私たちも一度、道路の無電柱化について関西電力と話をしたことがあるのですが、ケーブルテレビとの協議等、なかなか難しいようでした。「協働して担えること」ですが、先ほど申しました、道路の無電柱化、これが可能であれば実施してみたいと考えております。もし可能であれば、豊中市のモデル地区として、推進していただけたらと思います。

委員

豊中市で無電柱化しているところはありますか。

事務局

豊中駅近くに大池小学校がありますが、その前の府道では無電柱化を行っています。

委員

それは市の予算でされたのですか。

事務局

大阪府の予算です。

新千里南町2丁目西自治会

関西電力に協議の話を持っていったことはあるのですが、断られました。

部会長

昨年あたりから関西電力は自治体からしか仕事を受けなくなったようです。民間からは受けないみたいですから、協議をしていくのは大変かと思います。

今回の総合計画では、「南部地域活性化プロジェクト」をリーディングプロジェクトにあげています。南部地域をリーディングプロジェクトとして取り上げるということについて、どのように思いますか。

新千里南町 2 丁目西自治会

狭小宅地や狭あい道路の問題は建築基準法など、いろんな法律が絡んでくるので難しいと思います。条例等で定めないと、単なる行政指導では限界があると思います。狭あい道路を広げるということは道幅を 4m にするというのですが、今は 2m や 1.8m の道路が多い状況です。建築基準法では「後退したもののみならず」というような適用除外的な規定があるため、行政指導を超えた条例なりを整備できればと思います。

部会長

南部地域に重点的に豊中市の予算をつけるということについては、どう思われますか。

新千里南町 2 丁目西自治会

特に問題ないように思います。

部会長

続いて、一般社団法人豊中青年会議所へのご質問をお願いします。

委員

豊中青年会議所のホームページも拝見しました。ホームページには「豊かな社会の実現」などが書かれていますが、豊中青年会議所としては地域の発展にどのようなかたちで寄与されているのか、もう少し具体的な取組みを教えてください。

一般社団法人豊中青年会議所（以下「青年会議所」とする）

地域の発展を担うのは誰かと考えた時、それはやはりそこに住んでいる市民だと思います。青年会議所では「地域社会の健全な発展を目的とする事業」「指導力啓発の知識及び教養の習得と向上並びに能力の開発を促進する事業」「国際青年会議所と公益社団法人日本青年会議所との連携に基づく事業」「その他、当法人の目的を達成するための事業」という 4 つの事業に取り組みながら、自らが成長し、地域と向き合っ、何を考えていかなければいけないかを学んでいます。40 歳で脱退することになっていますが、40 歳を超えてからも青年会議所で学んできたことを糧に、地域に貢献しています。

委員

具体的な取組みとしては、「とよなかキャンドルナイト」や「わんぱく相撲」、「JC カップ」などスポーツ振興や青少年育成などということによろしいですか。

青年会議所

地域の活性化のためにそういった取組みを行っていますが、それをする過程の中で、メンバー自身が人間力を高めて、地域と向き合っていくということを軸に置いて活動しています。

委員

40 歳で脱退ということですが、豊中商工会議所に比べると非常に若いメンバーで構成されていると思います。若い事業者として、豊中市の産業振興に関して、どういった取組みがあればいいか、要望や意見があればお聞かせください。

青年会議所

メンバーが多種多様な職業をしていますので、一概には言えませんが、豊中市を産業として発展させるのであれば、人と人がつながっていくような場や、ビジネスについて考えられる機会がたくさんあれば良いと思います。

委員

豊中市には「とよなか起業・チャレンジセンター」がありますし、豊中商工会議所でされていることとも重なる部分があるのかもしれませんが、創業しやすい環境づくりについての要望等や意見があればお聞かせください。

青年会議所

現状、同業の仲間や仕事でお付き合いのある方の親族など、身近なところから地元で仕事をさせていただいているのだから、地元をもっと良くしていくための活動を一緒にしていこうと声をかけて、メンバーを増やして、ネットワークを広げて、活動を行っています。どういう職業の方がどこで何をされているかという情報が分かりませんので、飲食店のオーナーさんなどに飛び込み営業のようなかたちで、お話しして、仲良くなって、声かけるということもしています。しかし、人づてやマンパワーを使って活動の輪を広げていくのも限界があるように感じていますので、異業種交流の機会などがあれば良いと思います。

創業しやすい環境づくりということであれば、独立意欲を持っている若い人が集まれるような場があれば良いかと思います。独立したいとは思っているがどうしたら良いか分からない人や、アイデアはあるけど資金がないという人たちを支援できる仕組みができれば良いと思います。

委員

商工会議所もマッチングなどをしてはいますが、若い方を対象にしたということですか。

委員

商工会議所も市も、思いは同じだと思います。

部会長

青年会議所の仕事をよく知っているわけではないですが、横のネットワークができるきっかけの1つに、イベントがあるという話をよく耳にします。資料1の「必要な取組み」として「国際化」「音楽・スポーツ」「防災」「教育」の4つをあげていますが、とりわけ総合計画に位置付けて、力を入れていったら良いと思うものがあれば、ご意見をいただければと思います。次期総合計画では「明日がもっと楽しみなまち」を掲げていますが、その視点ではいかがですか。

青年会議所

「明日がもっと楽しみなまち」ということであれば、「防災」「教育」というのは常に考え続けなければいけない課題かと思います。「音楽・スポーツ」に関しては、豊中市が「豊中ブランド戦略」で「音楽・スポーツ・文化環境の充実」という方向性を打ち出されていますが、我々も同じ方向を見て、独立しているからこそできることをして、市の動きをバックアップしていこうとあげさせていただきました。とりわけ総合計画に位置付けていくべきだと思うのは、「国際化」だと考えています。去年は過去最高となる2,400万人もの外国人の方が日本を訪れていますし、国としても東京オリンピックが開催される2020年に4,000万人、2030年に6,000万人の来訪をめざして取り組んでいます。国際化と言っても枠は広いですが、豊中のまちがグローバル化して、世界基準で物事を考えているまちであると、魅力的ではないかと思います。

委員

大阪の黒門市場には、アジアの方を中心に多くの外国人の方が来訪されています。そういう状況を見ていると、青年会議所のような若い力で庄内の豊南市場で同じような取組みができないかと思うのですが、いかがですか。

青年会議所

それは1つのアイデアとして良いと思いますし、取組むことになれば青年会議所としても協力したいと思います。

実は今月、豊中市在住の外国人の方をお呼びして、「外国人から見た豊中の変なところ」についてディスカッションを実施します。結果として、豊中市に何か提言することも考えています

が、まずは日本人が思い浮かばないような外国人の視点や発想を吸収する機会を作って、その後、国際化に向けた大きな取組みをしていきたいと考えています。

大阪国際空港におそらく外国人はたくさん来られていると思いますが、シャトルバスでそのまま大阪市に行ってしまう方がほとんどだと思います。今はまだ外国人の方に豊中市に足を踏み入れてもらうような仕組みが作れていないので、そうした流れを新たに生み出していくのも面白いと思います。

部会長

続いて、とよなか市民公益活動協議体「らっぷ」へのご質問をお願いします。

委員

私は豊中市外ですので、基本的なことをいくつかお聞きしたいと思います。とよなか市民公益活動協議体「らっぷ」は市民活動団体をサポートする団体という理解でよろしいですか。

とよなか市民公益活動協議体らっぷ（以下「らっぷ」とする）

はい、そうです。

委員

豊中市の市民活動団体を網羅的に把握されているわけではないと思いますが、活動を通じて、いろいろな団体とお付き合いがあると思います。その中で、豊中市において団体数が多いと感じる分野は何かありますか。

らっぷ

市民公益活動で言えば、福祉分野が多いように思いますし、昨今は子どもを中心にした子育て分野も多いように思います。

1点訂正です。資料1の「まちの課題」の、「地縁型組織は他市と比べ活動量が多い」とありますが、「活動率が低い」の間違いです。豊中市は自治会に入っている人の数が少ないという特徴があるかと思えます。

委員

自治会自体はあるけど、そこに加入している人が少ないということですか。

部会長

ちなみに、自治会加入率はどれくらいですか。

らっぷ

47%程度だと思います。

部会長

普通かもしれません。大阪市は確か40そこそこだったように思います。

らっぷ

昔からお祭りなどの伝統文化が根付いているところでは、自治会加入率が8割9割ありますので、そういった地域と比較すれば、加入率は低いと思います。

委員

子育て系の団体が多いということですが、それはやむにやまれずと言いますか、子育てに関する課題に強い関心を持って、組織を作られる方が多く、そうした団体が増えてきたということですか。

らっぷ

子育て系の団体は増えています。子どもを中心とした市民公益活動は、自主自立型でサイクルを回していけますので、増えている要因としてはそういうこともあるかと思います。

委員

JCは40歳という制限があるようですが、子育て団体のスタッフは、自分の子どもが大きくなると卒業してしまったり、あるいはスタッフが入れ替わったりすることはあり得るのですか。

らっぷ

あり得ると思います。

委員

循環が続いている時は活動量を維持できますが、何らかの要因で循環が滞ってしまうと活動も縮小してしまうと思います。市民公益活動を続ける上で、課題などは何か感じていますか。

らっぷ

市民公益活動や地縁型の活動を行っている団体は、人材的・資金的にサイクルが回らないと、活動が疲弊してしまうことがよくあります。資金面ではよく言われるように、CB（コミュニティビジネス）やSB（ソーシャルビジネス）をしていきながら、負担を減らしていくことも必要かと思います。子どもの支援を行うような団体の中には、そういったビジネスモデルを構築して、自立的に回していけるところも出てきています。そうした団体は公益的な団体でありながら、一企業としての側面もありますから、継続的に活動を行えると思います。一方で、誠意と汗と時間を使って頑張っている団体は、どこかでサイクルが回らないようになり、活動が疲弊し、衰退していきます。

委員

活動を継続していくためには、サイクルを回せるようにどこかのタイミングである種のトランスフォームが必要だということだと思います。

資料1の「内容」としては、情報の受発信や研修、コンサルテーション、それからマッチングなどを行われていますが、これらは市民公益活動団体が自前ではなかなか補えない部分と言えますか。

らっぷ

自主自立型でサイクルを回していける団体、補助等を継続して受けないことには活動がままならないような団体、法制化が必要な団体など様々な団体がありますが、相対的にマネジメント力が低下しているように思います。よって、中間支援というかたちで、団体のニーズに合わせたフォローをしていく必要があります。活動の2、3割はそうした取組みを行っています。

委員

官と民の間の中間支援組織として「らっぷ」のような団体が必要ということですか。

らっぷ

そうです。資料1で「とよなか起業・チャレンジセンター」は名前のとおり、起業する方が対象です。「らっぷ」の対象は、市民公益活動です。豊中には、自主自立型でCB（コミュニティビジネス）やSB（ソーシャルビジネス）を行っていかようとしている団体を直接支援できる場所がありません。「らっぷ」が市民情報活動サロンを運営して4年になるのですが、3年目まではわれわれもCB（コミュニティビジネス）やSB（ソーシャルビジネス）を行っていかようとしている団体の支援を行うことが認められていませんでした。市民公益活動とは区別しなければいけなかったわけです。一方、「とよなか起業・チャレンジセンター」の方と色々とお話をさせていただくと、やはりCB（コミュニティビジネス）やSB（ソーシャルビジネス）はサービスに対する対価が少なく、ビジネスとして回していくことが難しく、起業支援とは少し違うということでした。

た。しかし実際には、CB（コミュニティビジネス）やSB（ソーシャルビジネス）の公益活動分野とビジネス分野の中間に位置するような、つまり「らっぷ」の射程にも「とよなか起業・チャレンジセンター」の射程にも収まらないような団体が非常に多く、そうした団体を何とか支援できるようにしたいということで、市民情報活動サロンの射程を広げて、今年から、そうした団体も支援できるようになったという経緯があります。また、「とよなか起業・チャレンジセンター」とも、個別で支援をしていこうという話もしています。

今後、CB（コミュニティビジネス）やSB（ソーシャルビジネス）の重要性は高まると思いますが、そうした団体をいかに支援していくかが総合計画には書かれていないように思います。

委員

私の理解では、基本計画の第5章「施策推進に向けた取組み」は特殊な役割を持っていて、他の章で書かれている医療や福祉や教育などと違って、ダイレクトに市民に影響を与えていくというよりは、仕組みや体制づくりに焦点が当てられています。協働や地域自治、担い手育成などについても書かれていますが、この部分を読んでどのように感じられましたか。

らっぷ

CB（コミュニティビジネス）やSB（ソーシャルビジネス）の支援についての記載がある、もしくは含まれている箇所というのが分かりませんでした。

部会長

中間支援組織やCB（コミュニティビジネス）、SB（ソーシャルビジネス）の支援あるいは強化策ということであれば、p. 48、49 のどこかに盛り込むということになると思います。個人的には「地域課題の共有を図り、協働によるまちづくりを推進します」などと思います。

委員

今言われたことが盛り込まれると、中間支援を行う団体として助かるということですか。

らっぷ

はい。ニーズがある一方で、現状、そういった記述がないので、総合計画には盛り込む必要があると思います。今後、地域の課題は多種多様化していきますし、地域の負担も増えていきます。そうするとCB（コミュニティビジネス）やSB（ソーシャルビジネス）をやるような自主自立型の団体が地域で活躍していくことが求められますので、その支援あるいは強化策については盛り込んでおくべきだと考えます。

「らっぷ」はどちらかという、テーマ型の団体を支援しています。テーマ型の団体は特定のテーマに対して深い活動をしています。地縁型の団体というのは1つのテーマではなく、色々な問題点を持っており、幅の広い活動を行っています。地縁型の団体は幅広い活動を行っている分、いろんな分野の問題に直面するのですが、その時に、特定の分野に対して深い活動を行っているテーマ型の団体とマッチングさせることで、課題解決を促せることもあると思います。そうしたテーマ型と地縁型の団体のマッチングというの、必要ではないですか。

委員

資料1の「内容」に「NPO等と地縁型組織とのマッチング」がありますが、これは現在、「らっぷ」としてもしているし、豊中市としてもっとしなくてはいけないということですか。

らっぷ

そうです。テーマ型組織も、顧客は地域の人です。一方、地縁型組織というのは幅広い活動を一生懸命されていますので、どういう団体がいて、どういう活動をされているのかをあまり分かっていません。その両者をタイミングよく上手くマッチングする仕組みというのが重要だと思いますし、まずはお互いに知ってもらうようなところから始めるべきだと思います。

委員

例えば、「らっぷ」ではどのようなマッチングをされていますか。

らっぷ

市は、いろいろな分野で地域に行き講座等をされています。市民情報活動サロンの団体情報に掲載されている団体が120弱あるのですが、それぞれの団体が、どんなスキルを持っていて、どんなことができるのかを一覧にして、地域の皆さんにお配りし、必要な時に声をかけられるような仕組みを作っています。市の出前講座と同じようなかたちで、「市民活動出前講座」と呼んでいるのですが、結構な数の反響があります。今までテーマ型組織とのルートがなかった地縁団体でも、必要なことを必要な時に、テーマ型組織から深いレクチャーを受けることができるので、非常にマッチングがうまくいっています。

委員

住民が直面した課題を扱っているテーマ型組織を派遣すれば、マッチングが上手くいくということですね。

部会長

続いて、新千里北町地域自治協議会へのご質問をお願いします。

委員

私は豊中市外ですので、基本的なことをいくつかお聞きしたいと思います。自治協議会というのは自治会と同じような組織との認識で良いですか。

新千里北町地域自治協議会

自治会と課題別、世代別団体、例えば老人会や福祉委員会、PTAなどとの連合会です。

委員

こうした組織というのは豊中特有のものですか。

新千里北町地域自治協議会

自治会活動が疲弊してきて、特に戸建ての自治会は高齢化が進んでおり、役が回ってきたら脱退するという状況もあります。以前から、地域連絡協議会のような会議も持っていましたし、防犯委員会のような豊中市からの連絡事項等が降りてくる課題別の会議もありましたが、それぞれ別々に活動していました。それを1つに束ねて、大きな協議会とすることで、活動を円滑にし、それに伴い補助金をつけるという制度がありまして、7つの地域を束ねて、地域自治協議会を立ち上げました。こういった取組みは豊中市に限らず、全国的に行われています。

部会長

神戸市では、地域自治協議会を制度化しようと取り組んでいますが、なかなか広まっていませんので、新千里北町地域自治協議会は成功事例だと言えます。

委員

私は地域自治協議会を詳しく存じていなかったのですが、豊中市は先進的だと聞いていました。当事者は普通に取り組んでいるだけと思われるかもしれませんが、他はあまりうまくいっていないということですか。

部会長

これまで別々に活動を行っていた組織を束ねるのは、お金の窓口を一本化していこうという方向ですか。

新千里北町地域自治協議会

従来、豊中市の福祉や警察、消防などから地域の各組織に情報等がきていたのですが、それをまとめようということで、豊中市でもコミュニティ政策課という部署を作られて、取組みを進めてきているわけです。現状、地域自治協議会と各組織が共存しているかたちになっており、豊中市からは今までどおり、各組織にも情報等を提供しています。窓口の一本化は未だ図れておらず、二重性がある状況です。地域自治協議会ができて3年くらい経っていますが、今はまだ過渡期だと思います。

委員

行政の末端機能のような組織は従来通り残ったままで、地域自治協議会と共存しているということですが、組織運営の円滑化を狙ったはずなのに、各組織の機能も仕事も減らない状況が続いているということですか。

新千里北町地域自治協議会

そうです。皆さん、各組織の役を兼務しています。新千里北町地域自治協議会の会長は18の肩書きを持っています。

委員

現在の状況だと、協議会としてのマンパワーが枯渇するという可能性はありますか。

新千里北町地域自治協議会

その点は、楽観視しています。豊中市には各小学校区に公民分館を設置する公民分館制度という独特の制度があります。その公民分館は取組みがうまくいっている地域もあれば、うまくいっていない地域もあります。私どもの地域では、仮に公民分館活動が年間10くらいあったとすると、そのうちの2つ3つはしますけど、その他はやりませんという条件で、地域自治協議会の会長が公民分館長を兼務し、地域自治協議会の事務局長が公民分館の事務局長を兼務するといったように、うまく実施活動にフィルターをかけていけば、良いのではないかと考えています。本来であれば、豊中市にそのフィルターをかけていただければありがたいのですが、予算がついてまわるものなので、なかなか難しいとは思っています。

委員

基本計画の第5章には、協働や地域自治を掲載していますが、地域自治活動をされている立場として、記載内容をもう少しこうした方が良いであるとか、こういう記述も盛り込んでもらえるとか助かるなど、ご意見をいただければと思います。

新千里北町地域自治協議会

全体的に分かりにくいように思います。

委員

p.49の「多様な人たちが関わる地域自治の推進を図ります」というところが、地域自治協議会や自治会の関係が強いところだと思います。この計画が動き出した時に、地域活動がしにくくなるようではいけないと思いますので、現場の声を聞かせていただければと思います。

新千里北町地域自治協議会

地区によって補助金額が決まっていると思います。新千里北町地域自治協議会では250万円くらいありますが、使い切れていません。補助金は新しい活動に使えて、従来の活動には使えないという制約があります。

地域自治協議会を立ち上げるのに、1年半くらい、豊中市の方とコンサルタントと一緒に、ラウンドテーブルをしながら、議論をしてきました。その過程で、まちの中から先進的な人たちが出てきて、地域の担い手が入れ替わりました。わたしもその一人です。立ち上げまでの過程でラウ

ンドテーブルやブレインストーミング、まちあるきをして、それが楽しくて抜けられなくなって、役を引き受けているのですが、今も楽しく活動させていただいています。

今は新しい人たちに入れ替わって、新しいことに取り組んでいます。それは補助金が見つからないからなのですが、新しいことを考えるということが役を持っている人たちの1つのモチベーションになっているという側面があると思います。先ほど、誠意と汗と時間を使って活動している団体という話がありましたが、まさにそれだと思います。

部会長

地域自治協議会のめざすところは、住民代表機能を持った組織でそれを活動に結びつけていく、つまり地域政府の確立にあるのだらうと考えます。すでに北九州や名張などでされているところがあるのですが、選挙があって、地域の代表者が住民に認められて、なおかつ補助金を再配分し、適切な活動をしうる団体とする考え方です。しかし、そのためには人材がものすごく必要になるので、うまくいっていないところが多く、豊中市においては地域政府のようなものの可能性あるいは必要性についてどのように思われますか。

新千里北町地域自治協議会

選挙で役員を決めることはしていません。誰もやり手がいないので、来年度も私たちがすることになっています。地域の担い手は不足しています。

担い手不足に関してすごく感じますが、私は非常に恵まれていると思います。両親の介護もいらないし、特に困ったこともなく、私自身も健康で、会社を定年になって、昔ほどバリバリ働かなくても良くて、地域のお手伝いができる状態にあります。しかし、定性的、普遍的には、私のような人はあまり多くないと思います。昔は定年も55歳で、年金もたっぷりありましたが、今は定年も65歳で、年金も減っていますので、定年だからといって働かないと食べていけない人がほとんどだと思います。それは男性も女性もそうです。昔は専業主婦もいましたが、今は減っています。両親の介護が必要な方もいますし、昔のように定年後は悠々自適で、地域でボランティア活動ができるという状態の人がなかなかいないというのが実態だと思います。担い手を探そうにも、できる状態の人がいない。そうした課題があらうかと思います。

部会長

続いて、千里ニュータウンFM放送（株）へのご意見をお願いします。

委員

FMはメディアですし、情報発信のツールだと思うので、今、本当に重要になってきていると思います。豊中市はどういう状況か、行政として何をしているのかということ、放送を通じて市民に知ってもらい、市政に関心を持ってもらうためには重要なメディアだと感じます。先ほどホームページなどを拝見していると、向井さんのインタビュー記事なども載っていたのですが、私は大阪大学に在籍していて、最近、市民向けのイベントなどをしたのですが、FM千里のことを知っていれば、こういうところでも宣伝ができたかなと思います。市民の方に関心を持っていただき、考えていただくことは難しいと思うのですが、それに関連していくつか質問させていただきます。

資料1の「まちの課題」として「他市から見た豊中のイメージの明確化」、「必要な取組み」として「住民自ら豊中市の良さを語る」ということを書かれていますが、イベントなどで他市とも情報共有されていると思うのですが、他市と比べて豊中市の市民はどういうものに関心を持っているのか、どういう良さをどういうふうに語れば関心をもってもらえるのか、お聞かせいただけますか。

あと、FMを聴いてもらうために色々と工夫をされていると思うのですが、聴いた人が情報を受け取って、一市民が豊中市のためにどうすればいいかを考えるためには、どういった工夫が必要ですか。

千里ニュータウンFM放送（株）（以下「FM千里」とする）

FM千里は、今年で10年を迎えます。コミュニティFMということでお話をいたします。

良さを語る方法に関してですが、近畿の各放送局、約30局が集まる会議を3ヶ月に1回くらいしますが、放送局を行政と一緒に立ち上げたところは、市の情報が充実していますし、市民の皆さんも積極的ですし、「われわれのまちはこういうまちなんだ」ということがはっきりと明確に打ち出せているところが多いように思います。しかし、FM千里は行政と一緒に立ち上げた放送局ではありません。豊中に住んでいる人がどう思っているのか取材の中で聞くこともあり、「なんで豊中に住んでいるのですか」と聞くと、「住みやすい」ということをすごく挙げられます。また「学力が高い」という意見も多くあります。通勤族の方にお話をうかがったりすると、「豊中市は学力が高いから、子どもを育てる環境が良いと思って選んだ」という話も聞いたりします。しかし、それをキャッチフレーズのようにしていくのは難しいと思います。他市でも教育については取り組まれていますし、差別化していくのは難しいと思います。何か豊中市の良さを表す言葉や表現、豊中市の良さを語れるようなキャッチフレーズなどができれば、まちとしてのイメージを明確化できますし、ラジオを通じたアピールや、市民の方も発信できるようになるのではないかと思います。

先ほど、豊南市場を黒門市場のようにしてはどうかというアイデアが出ていましたが、おもしろいなと思いました。今、北摂で訪日外国人旅行者の方に人気の市はどこかご存知ですか。池田市です。SNSで情報が拡散されていて、インスタントラーメン発明記念館や五月山動物園にアルパカを見に行くという方が多いそうです。黒門市場でも、ある食べ物を食べたら会員証のようなものを発行するという取組みをされていて、訪日外国人旅行者の方がそれを目当てに訪れて、SNSで情報を発信し、さらなる来訪を促すという循環ができています。豊南市場でもそういった取組みができれば良いかもしれません。南部地域に住んでいる皆さんにもインタビューしたことがあるのですが、悪いことは聞いたことがありません。会合などにも参加させていただくことがあるのですが、どうしたら豊中市がもっと良くなるか、熱心に考えている方が多いと感じます。何か1つのフレーズがあれば、市民もまとまることのできるのではないかと思います。

聴いてもらう工夫ですが、2015年に新千里東町、西町、北町、南町の自治会の方と交渉して、3ヶ月ずつボランティアで番組を持ってもらいました。そうすると「私が出るから聴いてよ」と宣伝してくださり、それぞれの地域で多く視聴されました。実際に地域の方にご出演いただいて、そのつながりで視聴を増やしていく。これが1つの聴いてもらう工夫ではないかと思います。

FM千里は10年していますが、まだまだ知っていただけていないというのが現状だと認識しています。昨年の豊中市の広報誌に「豊中市にあったらいいもの」を聞くアンケートの結果が載っていましたが、「コミュニティFM」の割合が高くてまだまだだと改めて感じました。

委員

コミュニティFMは、豊中市では千里だけですか。

FM千里

そうです。

委員

FM千里は、豊中市全域に届かないのですか。

FM千里

はい。インターネットでは視聴していただけます。

委員

南部では聴けないので、基本的には北部の人向けの番組内容になっているということですか。

FM千里

アンテナの関係でそのようになっています。

委員

南部地域にもコミュニティFMがあっても良いと思いますが、簡単にできないですね。

委員

視聴人口はどれくらいですか。

FM千里

総務省からの認可では、豊中市、吹田市、茨城市、箕面市の各一部市域が視聴エリアで、約5万世帯、約13万人くらいが対象となっています。

委員

意外と狭いですね。私は六甲から三田に通っていますが、有馬を抜ける時、西宮のコミュニティFMがよく入ってくるので聴いていますし、三田のコミュニティFMも聴いています。

FM千里

エリアを拡大しようという動きも、少しずつしています。

委員

出力をあげるということですか。

FM千里

アンテナの位置を変えることを検討しています。豊中市は空港があるので、空港の電波を干渉してはいけないため、あまり電波を飛ばしてはいけなく、アンテナの位置を高くして、電波を弱く出せば、エリアを拡大できる可能性があり、今、その検討をしているところです。

それとコミュニティFMが一番役に立つのは、災害時だと思っています。有事の時に役に立たないコミュニティFMは意味がないという思いもありますので、そのための動きもしております。東日本大震災や熊本地震など大きな災害が起こると、年配の方が放送局に来られて、「このへんで地震があったら、おたくのラジオ聴けばいいんやね。聴き方教えて。」と言われます。災害時に頼りにされるということがすごく嬉しくて、聴き方を教えますが、有事に備えて、日頃から防災情報等をご協力いただきながら放送もしています。

部会長

豊中の南部地域のイメージアップのために、何かアイデア等ありますか。今回、総合計画で、南部地域活性化をリーディングプロジェクトとしてあげていますが、何かイメージアップのためのご意見等があればいただけますか。

FM千里

南部に新たにラジオ局を作るのではなく、FM千里のサテライトスタジオを作っても面白いと思います。電波の関係上、聴こえにくいところはあるかもしれませんが、豊南市場にサテライトスタジオを作ることによって、南部地域の情報を発信しても良いかもしれません。もちろん費用の問題があるので、簡単ではないと思いますが、アイデアとしては面白いと思います。

部会長

コストは結構かかりますか。

FM千里

スタジオを作ってマイクを置いて機材を用意しないといけませんので、かかるかと思います。

委員

調整室のようなものも必要になってきますか。

FM千里

スペース的には机1つで十分ですが、電話回線を引かなくては行けませんので、少しお金がかかります。ただ、環境さえ整えれば、簡単にそこから発信することは可能です。オンライン通話

などのサービスを使えば、無線 LAN でも対応ができますが、電波状況によっては音声がかかる可能性もあります。

委員

FM 千里のサテライトということは、南部地域の方は聴けませんか。

FM千里

サテライトで放送している時は、聴けます。

委員

やはり、南部地域等にも FM が入るようになるのが一番良いと思います。

部会長

ここからは、自由に議論ができればと思っています。各団体の皆さんからは総合計画に求めたいことを言っただき、委員の皆さんからは各団体の皆さんに聞きたいことを自由に聞いていただければと思います。

委員

FM千里さんに、スポンサーを集める立場として、豊中市のビジネスの状況はどんなふうに見えていますか。

FM千里

営業にまわりますが、コミュニティ FM ですので、千里ニュータウンの企業、特にセルシーやせんちゅうパルに入っておられる企業が中心になります。エリア限定的なことしか言えませんが、やはり、セルシーの件もあり、千里中央に人が集まらなくなるとは困るということで、千里中央をどうしていくか、活性化に向けた取組みを検討されています。

委員

ビジネス環境は、厳しくなっていると言えるのかもしれませんが。

FM千里

これまでお客さんが集まっていたところに穴が空いてしまうかたちですし、北大阪急行の延伸もあり、千里中央の乗降客が 2 割くらい減ると予想されています。また、モノレールの乗り換えだけだと、南側しか利用されなくなるのではないかという予想もされています。そうすると北側はますます人がいなくなりますし、近辺の企業からはこれからどうしていかと不安の声を聞いています。

委員

エキスポシティの影響などもありますか。商圏的には隣接していると思いますが、エキスポシティで買い物をして、千里中央では買い物はしないような人も増えたりしますか。

FM千里

今まで当たり前のように千里中央に来ていた人が、分散していると聞いています。

部会長

千里中央の再開発の推進も、必要かもしれません。

委員

前期では南部を、後期では北部をリーディングにする必要があるかもしれません。

らっふ

豊中市では外国の人を呼び込むと言っても、なかなか豊中市を目的には来てもらえない、そういうまちだと思います。市民活動団体も行政もいろいろと活動をされていますが、豊中市には観光課的な部署がありません。観光課が必要かどうかはおいておき、現状、豊中市の全体的なイメージを発信していくことができない体制になっているように思います。

部会長

豊中市の場合ですと、魅力創造課がそれにあたると思います。

らっふ

魅力創造課とは深いお付き合いをさせていただいていますので、どんなことをされているかというのは分かっていますが、そういう体制にはないと感じています。例えば、魅力創造課で音楽系のイベントをする場合、文化芸術課もありますし、高校生のダンスのイベントをするといった場合には、教育委員会やこども関連の部署もあり、同じようなものが何個もできることとなります。魅力創造課がきちんと横串をさせていないということではないとは思いますが、観光というひとつの括りの中で、横串をさせるような体制の構築が必要ではないかと思います。地域活動をして20年、25年経ちますが、ずっと豊中で活動している人間として、次の総合計画の中には明確に位置づけるようなことがあっても良いのではないかと考えています。

部会長

1つのイベントに対して、いくつかの部署が絡んできて、それぞれに予算を持っている。それを上手く使えば良いのですが、実際は互いに足を引っ張り合っている状況もあるということだと思いますが、このご意見に対して、いかがですか。

委員

魅力創造課ができて、魅力創造課が一举に引き受けて包括的に担当しているので、縦割りがなくなると豊中市から聞いていますがどうですか。

らっふ

市民活動団体からはそうは見えていません。庁内には依然として縦割り構造が残っていると感じます。イメージ的には、魅力創造課という太い縦の柱ができたという感じを持っています。

委員

北摂の商工会議所が集まって会議をすることがありますが、北摂で観光がないのは豊中市だけだということを聞いています。観光資源は豊中市にもありますが、包括的に扱う課がないあるいは扱っていないというのは少しおかしいように思います。

委員

私の専門は行政学、地方自治なので、今のご指摘はよく理解しているつもりです。役所の中で働いているわけではないので、豊中市の実態は分かりませんが、そういう話はよく聞きます。

10年くらい前から各地で、映画等の撮影場所誘致や道路や公共施設の使用許可などを取ったりして撮影支援をワンストップで行う部署として、フィルムコミッションが立ち上がっています。日本では茨城県が先進的なのですが、日本国内でもどんどんその動きが拡大しています。もともとはアメリカのニューヨークあたりから始まったのではないかとと思いますが、アメリカの大きい都市ではだいたいフィルムプロモーションオフィスというのがあります。こういう類似事例がありますから、観光においてもワンストップでできるはずです。

現実問題としてお金の流れがあって、各省庁からでている関係上、縦割りになってしまうという側面はあるとは思いますが、それは市民にとっては関係のないことなので、役所の中で束ねて、正しい方向性に進んでいくことが重要です。現実的にそうならないのであれば、基本計画の中に市民にも分かるかたちで、ワンストップで行政マネジメントをしていくということを書いて良いかもしれません。

市民環境会議アジェンダ 21

2点あります。

まず、「地球温暖化対策」について先ほど話をしたことは違う視点から発言させていただきたいと思います。地球温暖化に関して、豊中市の場合は高速道路が多いので、通過交通も問題になっています。要は豊中市内の高速道路を走ることによって豊中市内に温室効果ガスが排出されているわけです。ただその把握は以前から難しいと言われていて、現状把握ができないために対策も講じられないということで、豊中市は通過交通対策を諦めている現状です。基本計画に関連して言いますと、環境以外のところ、例えば、交通施策の部分にも渋滞や違法駐車だけでなく、通過交通についての記述があっても良いように思います。また、省エネに関しても、住宅そのものの環境性能を高めるという動きもありますので、住環境にも関連してきます。環境問題というのはなにも3-1や3-2だけに関わらず、横断的に関わってくるのですが、そのあたりがうまく表現できていないように感じます。

以前、環境は単独の章であったのですが、今回はそういう構成にはなっていません。環境を柱に据えないのであれば、環境については章を横断しながら、色んな箇所に要素を盛り込んでいってはどうかと思えます。

もう1つは南部地域の活性化についてです。先ほど、緑の量について発言させていただきましたが、実は緑の量で言えば、豊中市内において南部が一番、緑が少ないというデータがあります。南部地域でも家の庭先などで、プランターで植物を育てられていたりするところもいっぱいありますが、千里などに比べると、緑の量は少ない状況です。リーディングプロジェクトの「主な取組み」で南部地域の活性化等を目指していかれるのであれば、その一環として、南部地域の緑の量や質についても増やしていくということも盛り込んでいただければと思います。また、南部には大きな公園もありませんので、小学校の跡地などを活用して緑を増やすということも検討いただければと思います。小学校の跡地に民間の工場などができれば、今よりも緑が減ってしまうことになりかねませんので、そういったことも含めて、書き加えていただければと思います。

部会長

関連してお伺いしたいのですが、最近では省エネのまちづくりに関する制度もいくつか出てきていますが、省エネなどはデータを集めないことにはその効果が示せないわけです。今回の総合計画では「市民・事業者の主な取組み」を掲げています。省エネに関して、プライベートな個人情報などをモニタリングして蓄積してくということは可能性としてありますか。

市民環境会議アジェンダ 21

可能性はあると思います。われわれも豊中市と協働で事業を行っており、その一環として、市民の方から省エネに関連するデータを提供してもらっています。それを拡大して、特定の地域で一斉にやってみるということは可能かと思えます。技術的にもスマートメーターなどもありますし、市民の協力が得られれば、できなくはないと思います。

部会長

地域や町など、面としてそういう取組みができれば、スマートシティということになるのかもしれませんが、面的なモニタリングの可能性があるということであれば、総合計画に盛り込むことも検討できるかもしれません。

各団体の皆さんからいただいたご意見等は、各委員が責任を持って反映します。本日はありがとうございました。

●「2. その他」

事務局

(今後のスケジュールの確認)

部会長

これもちまして、豊中市総合計画審議会第1回第2部会を終了します。

●閉会